JABEE設立25周年記念大会

2024年 6月 5日

化学分野JABEE委員会

委員長　山際和明
（新潟大学名誉教授・JABEEフェロー）

関係学協会が多い

化学工学会，日本化学会，高分子学会，安全工学会，石油学会，電気化学会，セラミックス協会，日本薬学会，腐食防食学会，有機合成化学協会

・学会等が分散して開催されるため，関係者が一堂に会する場がない。
・学会とは別に場を設けるための日程調整が困難。
技術者教育に関わる情報や意見を対面で交換する場を持ちにくい。（以前は分野別講習会を実施した）

＋受審辞退が増加した

・認定プログラムとのコミュニケーションが必要

⇒2023年度から**意見交換会**をリモート実施
好評なので継続実施の予定

関係学協会が多い

・幹事学会が事務局（輪番制）　⇒　維持や引継が困難

⇒2021年度より事務局機能を**外部委託方式**に切り替えた。
事務局費用を削減できた。
（受審数にあまり依存しないで事務局を運営できている。）

⇒事務局機能を外部委託する場合に，JABEEと業務委託先で全体のプロセスを精査して，業務を整理・分担をする必要がある。各分野が個別に外部委託するのではなく，まとめて外部委託する**仲介的な役割をJABEEが担ってほしい。**

課題

受審校の減少

メリット　＜　デメリット

作業量	↑増
関係教員数	↓減

審査員の確保

・オンライン研修は良い取り組みである。
・認定プログラムの教員に積極的な参加を要請している。

JABEE認定のメリットを大きくする

→プログラムの優れているところを公表できれば，プログラム側のメリットになる。
・高校生（教諭，保護者）へのアピール（教育方法，学生支援，卒業生の評価…）
・学生へのアピール（自プログラムの優れている点，自己アピールの材料…）
・企業へのアピール（自立できる人材，協働能力が高い人材…）

⇒JABEEが認定プログラムの良いところを“ほめて”欲しい。
「**審査チームの所見：特に優れているところ**」を公表できれば，認定プログラムにとってメリットになる。

化学分野委員会

情報やノウハウを共有
自プログラムの改善のヒント
自プログラムの特徴を認識

⇒認定プログラムの優れた取り組みを“グッドプラクティス”として紹介，顕彰する準備を行っている。
⇒プログラムとのコミュニケーションを図るために、レターを毎年不定期で発行する予定。
（受審校以外のプログラムと良いコミュニケーションの取り方が分からず、困っている。）

技術者教育の必要性について

・「技術士会」との連携

・国際認証資格（技術士，博士号）が有用なことを発信
（技術者が海外で他の技術者と協働する場合に技術者の体験談として）

・海外プロジェクトが多い企業，業界から協力を求める
（プラントショーでの講演など）

・偉業、歴史の蓄積ある企業との連携

高校生や、工学部 1, 2年生に「技術者」をアピール

・「技術者」のイメージを高校生に発信する（工学部出身の教諭は少ない）

・“新プロジェクトX”の影響で注目度が上がるか
　　設計者やエンジニアの活躍事例を解説する（現場の苦労話ではなく）

・高校対象の“**出前講義**”にJABEEや技術士会が参加

・技術がどのように開発されたか、情報発信する
　　「はたらく細胞」のような「はたらく技術者」を制作

・日本の「技術者」の活躍の歴史を発信する

・負の歴史はどのように発信するか？　⇒ それを解決するのも「技術者」